かつら川だより

京都市立桂川中学校

第１１号発行：平成３１年２月２６日

その気持ちをカタチに

学校教育目標

「人を大切に，物を大切に，時を大切に」

～誇りの持てる学校に，誇りの持てる自分に～

２０１１年３月１１日，テレビに映し出される映像に目を疑い心が痛くなったことを今でもはっきりと覚えています。東日本大震災から８年が経ちます。この震災による死者・行方不明者は１万 8,432 人，今なお７万人を超える人が避難所生活やふるさとに戻れず生活をされています。空前の出来事に人々は言葉を失いましたが，被災地の報道の合間にテレビで流れた一片の詩に耳を傾けました。覚えておられる方もいらっしゃると思います。

「こころ」は　だれにも見えないけれど　「こころづかい」は見える
「思い」は　見えないけれど　「思いやり」は　だれにでも見える
その気持ちをカタチに

ＡＣジャパンのＣＭです。前２行は，詩人「宮澤章二」さんの『行為の意味』という詩から抜粋要約したフレーズです。この短いナレーションが流れ，「電車の中で，妊婦さんに席を譲る女性を見かけ，その後，自ら街で急な階段を昇るお年寄りの手を引く高校生の姿や情景」が描かれています。高校生の表情から葛藤が伝わってきます。気持ちや心があってもできないこともあります。「行動しない」＝「思いがない」とも言えません。でも・・・。

未だかつて経験したことのない衝撃と悲しみに覆われていたときに，テレビに流れた映像とこの一片の詩。私たちに「こころづかい」や「おもいやり」，そして「生きること」の大切さを教えてくれ，人として本来のあるべき姿を思い起こさせてくれたのです。

心を言葉に，心を行動に。思いを言葉に，思いを行動に。そんな私でいたい。

「行為の意味」　宮澤章二

あなたの「こころ」はどんな形ですか
と　ひとに聞かれても答えようがない
自分にも他人にも「こころ」は見えない
けれど　ほんとうに見えないのであろうか
確かに「こころ」はだれにも見えない
けれど「こころづかい」は見えるのだ
それは　人に対する積極的な行為だから
同じように胸の中の「思い」は見えない
けれど「思いやり」はだれにでも見える
それも人に対する積極的な行為だから
あたたかい心が　あたたかい行為になり
やさしい思いが　やさしい行為になるとき
「心」も「思い」も　初めて美しく生きる
それは　人が人として生きることだ

毎日，少しずつ「いいこと」を積み重ねていくと，本人も知らないうちに，身のこなしが洗練され，表情にも優しさや美しさが漂う。不平不満や人のあら捜しばかりしていると，その心がその人の顔つきになってしまう。人を想う優しさ，その心の持ちようや行動がその人の顔や存在感をつくっていくのです。どれだけ外見をつくろっても，この魅力に及ぶものはありません。（「覚悟の磨き方」より）

宮澤章二（みやざわしょうじ）・・・1919 年 6 月 11 日，埼玉県に生まれる。東京大学文学部卒業。数年間，県立高校で教鞭をとるが，文筆業に専念。童謡・合唱曲・校歌・市民歌など作詞を手掛け，校歌の作詞は全国の小・中・高校等３００校に及ぶ。また，ある教育冊子に，中学生に向けて詩を贈り続けました。宮澤章二の詩は，自分と葛藤している思春期の子どもたちに，「行為の意味」のように，優しく具体的にメッセージを伝えています。